

日本製鉄グループ内で発生した4件と他社災害1件の災害を報告します。
類似災害防止に活用下さい。

<日本製鉄グループ災害の概要>

1	6/14	山陽特殊製鋼(株) OVAKO社 Hofors製鉄所
・被災者	29歳	OVAKO従業員
・休業見込	2日	
・傷病名	目異物付着	
・概要	石灰搬送不良の処置作業中、バルブ分解時に配管内の残圧により 充満した石灰が飛散し、被災した。	
2	6/30	大阪製鐵(株) 西日本熊本工場
・被災者	41歳	株式会社西日本メカニクス工業所
・傷病名	右第2、第3腰椎突起骨折(ヒビ)、右足関節捻挫、全身打撲	
・休業見込	14日	
・概要	電気炉直引集塵ダクト内清掃中に緩衝筒内へ転落する	
3	7/6	三晃金属工業(株) 東京支店 松本営業所
・被災者	57歳	百瀬板金
・休業見込	未確定	
・傷病名	右手第一関節 中指裂傷、環指先端骨折・裂傷、小指先端骨折・裂傷	
・概要	ホースを接続した瞬間にシーマーが作動し、弛締め部を持っていた 被災者の指が挟まれた。	
4	7/20	三晃金属工業(株) 中国支店 山口営業所
・被災者	70歳	渡部板金
・休業見込	未確定	
・傷病名	右足付け根の頸部骨折	
・概要	天井面のナットの締め具合を確認するために手を伸ばした際に 脚立の天板から地面へ転落した。	
5	7/25	(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
・被災者	34歳	コベルコE&M / 別府工業
・傷病名	右手中指先端部一部欠損	
・休業見込	7日	
・概要	架台に立てかけたピンチローラ軸箱をチェーンブロックにて立て 起こそうとした際に、軸箱が滑り、軸箱と架台の間で右手中指を挟んだ。	

2022年 7月 6日
山陽特殊製鋼(株)

休業災害速報(社員)

発生事業所	OVAKO社		発生日時	2022年6月14日(火) 23時20分頃		
発生場所	Hofors製鉄所		作業区分	非定常作業		
被災者	所属	OVAKO従業員:A氏	役職	不明	勤続年数	0年 7ヶ月
		請負業者:B氏	年齢	29	作業経験	0年 7ヶ月
	氏名	A氏(休業)、B氏(不休)	性別	男	(構内経験)	—
傷病名	目異物付着:A氏-休業、肩打撲、目異物付着:B氏-不休				休業見込み日数	2日
災害の概要	石灰搬送不良の処置作業中、バルブ分解時に配管内の残圧により充満した石灰が飛散し、被災した。					
災害状況	23:20 ・炉のオペレーターは、石灰の搬送に問題があり、ダンパーの不良と考え、調査のために保守作業員を呼び出した。					
	・現場へ駆けつけた保守作業員2名(1人はOvakoの従業員A、もう1人は請負業者B)は、石灰が配管に詰まっていることを発見したため、石灰の詰まりをバキュームで吸い出そうと考えた。Bはギアバルブのカバーのボルト緩め始め、Aはバキュームを手にとった。カバーの4本のボルトの内2本緩めようとした瞬間、配管内の内圧(通常0.6MPa)により突然緩んだ。突然緩んだカバーがBの肩にあたり、石灰があたりに充満した。石灰が充満したため、AとBの目や口に入ってしまった。(この時Aはゴーグル、Bはバイザーを着用していたが風圧で飛ばされ、共に防塵マスクを着用していなかった。)					
	※ギアバルブ付近には残圧が確認できる圧力計や残圧を抜く設備が設置されていない。					

(発生状況の図、写真など)

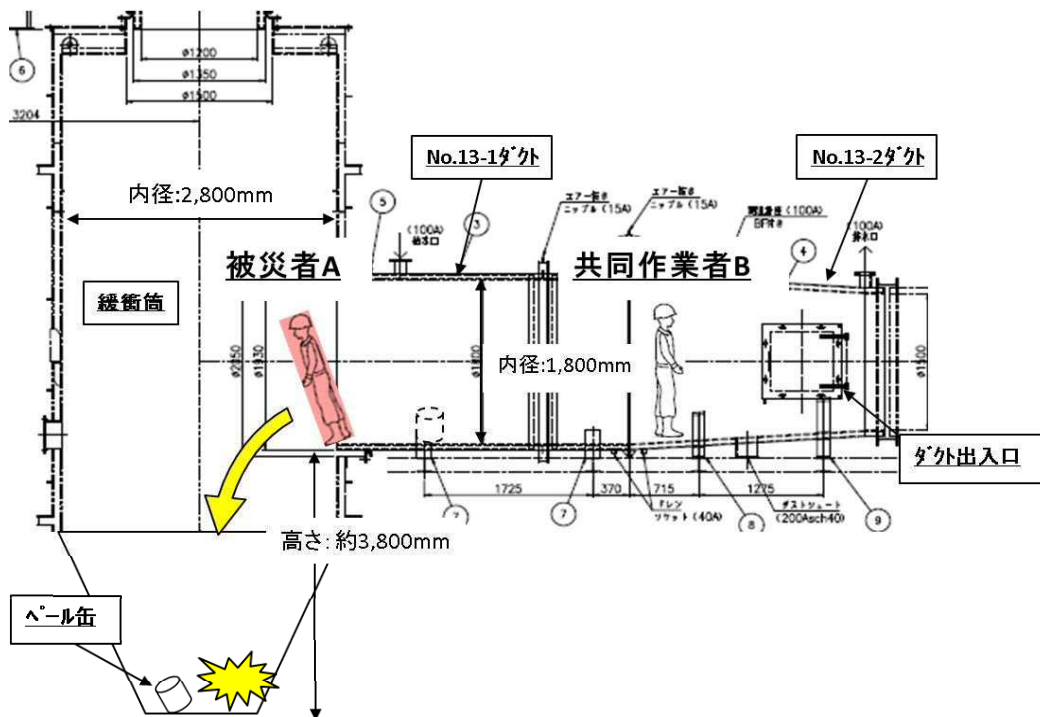


図1 設備の概要

休業災害速報(協力会社)

発生事業所	大阪製鐵(株)西日本熊本工場		発生日時	2022年 6月 30日(木) 10時 15分		
発生場所	緩衝筒(直引集塵ダクト)		作業区分	定常作業		
被災者	所属	株式会社西日本メンテナンス工業所	役職	一般	勤続年数	0年1ヶ月
			年齢	41歳	作業経験	0年1ヶ月
	氏名	A 氏	性別	男・女		
傷病名	右第2、第3腰椎突起骨折(ヒビ)、右足関節捻挫、全身打撲				休業見込み日数	14日
災害の概要	電気炉直引集塵ダクト内清掃中に緩衝筒内へ転落する					
災害状況	9:30	被災者Aと共同作業員6名は工作班と合同TBM実施。その後、西日本メンテナンス工業所内メンバーでTBM実施。				
	10:00	被災者Aは共同作業員Bと共に作業準備後、直引集塵ダクト(緩衝筒出側ダクト:No.13-1,13-2)に移動。共同作業員Bは被災者Aに開口部がある為、開口部手前1mの所にダストを集めるように指示した。被災者Aと共同作業員Bは二手に別れ堆積ダスト清掃作業を開始した。				
	10:15	被災者Aは堆積ダストをスコップで集め、ペール缶に返した。被災者Aは緩衝筒側へ転落した。共同作業員Bは被災者Aが転落したことに気付き、状況を確認し被災者Aに声掛けをした。共同作業員Bは関係者へ連絡後、応援を呼び被災者Aを救出した。				
	10:34	救急車到着し、病院へ搬送。				
		※ 被災者は2週間入院後、通院予定。				

(発生状況の図、写真など)



休業災害速報(協力会社)

発生事業所	東京支店 松本営業所		発生日時	2022年7月6日(水)		
発生場所	長野県安曇野市豊科高家1313		作業区分	腰折れ屋根の壁面の本締め作業		
被災者	所属	百瀬板金	役職	代表者	勤続年数	24年
			年齢	57歳	作業経験	24年
	氏名	M. S	性別	男	(構内経験)	—
傷病名	右手第一関節 中指裂傷、環指先端骨折・裂傷、小指先端骨折・裂傷				休業見込み日数	未確定
災害の概要	ホースを接続した瞬間にシーマーが作動し、馳締め部を持っていた被災者の指が挟まれた。					

災害状況	8:00	朝礼・KY後、作業開始(腰折れ屋根の壁面SX40の本締め作業・2名による共同作業)
	10:50	災害発生！ 被災者は、本締め作業に使用していたエアシーマーの締め具合が緩かった為、エアホースを抜いて共同作業者と調整を行った。調整後、ホースが繋ぎづらかった為、被災者はシーマーが動かない様に無意識に馳締め部を押え、共同作業者は何度かシーマーを持ち直してトリガーを握ってしまった。ホースを接続した瞬間にシーマーが作動し、馳締め部を押えていた被災者の指が挟まれた。
	10:52	元請へ報告し、病院へ搬送。
	14:45	診察・処置終了。
	15:00	現場に戻り、元請へ報告。
	16:30	作業終了後、帰宅。
	翌7日	自宅近くの病院で再度検査。4週間の加療との診断を受け、引き続き休養になると見込まれる。

(発生状況の図、写真など)



本締め作業の様子



ホースを外して馳の調整をしていた。



調整後、ホースを接続するときトリガーを握ってしまった。馳締め部に指を入れてしまっていた。

挟まれた部分



休業災害速報(協力会社)

発生事業所	中国支店 山口営業所		発生日時	2022年7月20日(水)午前9時10分頃		
発生場所	山口県山口市小郡上郷5439		作業区分	漏水箇所の調査・確認		
被災者	所属	渡部板金	役職	代表者	勤続年数	48年
			年齢	70歳	作業経験	48年
	氏名	W.T	性別	男	(構内経験)	—
傷病名	右足付け根の頸部骨折				休業見込み日数	未確定

災害の概要 **天井面のナットの締め具合を確認するために手を伸ばした際に脚立の天板から地面へ転落した。**

災害状況	9:00	漏水調査を開始。(被災者、当社担当者の2名による共同作業) 現地で漏水箇所と状況を確認し、ボルトからの漏水を想定、天井面からナットの締め具合を確認しようとして、漏水箇所の直下に脚立(8尺・高さ約2.4m)を設置した。
	9:10	災害発生! 被災者が脚立へ上がって行き、7段目(天板の1段下)の位置に立って手を伸ばしたが、天井面のナットに手が届かず、天板に上がって照明設置レールを掴んで体制を安定させようと背伸びをしたが、掴み損ねてバランスを崩し、立っていた天板を踏み外して、高さ2.4mから転落して右足付け根付近と右顔面を舗装面(アスファルト上)に強打して被災した。
	9:25	救急車を要請して病院へ搬送、元請に報告。
	11:30	右足の頸部を骨折しており入院・手術が必要と診断された。頭部のCT検査の結果は異常無し。 ※持病の血糖値が下がらなければ手術が出来ないため、1週間の入院後に手術予定

(発生状況の図、写真など)

<現場全景>



<天井面>



照明取付用レール

この辺りから漏水していたとの事

<天板の大きさ>



長さ約32cm 幅約16cm



この照明レール付近で漏水しているとの事

高さ約4.4m

脚立高さ 約2.4m

被災者

体勢を崩して転落

当社担当者

[負傷部位] 骨折の種類

- 骨頭骨折
- 頸部骨折**
- 転子部骨折
- 転子下骨折
- 骨盤
- 関節包

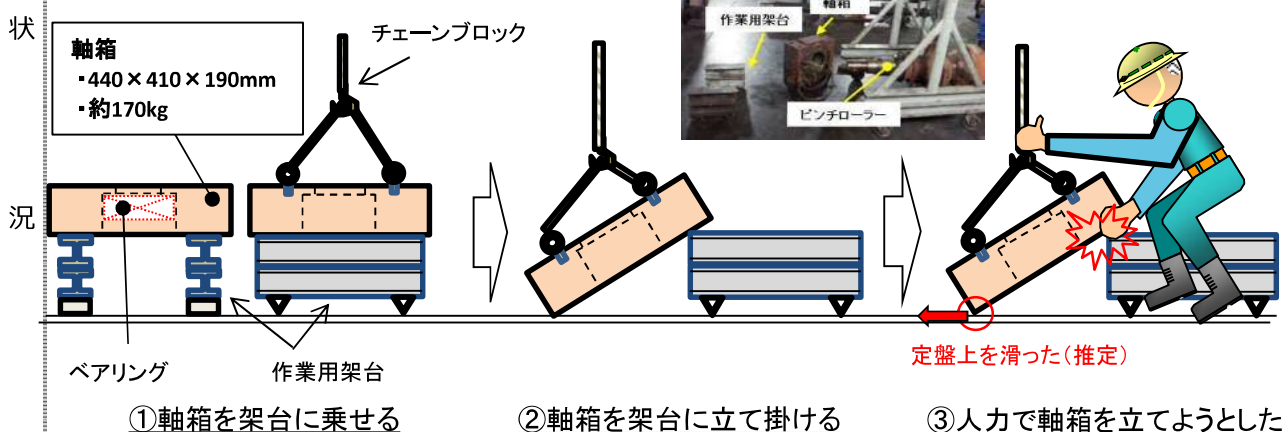
休業災害速報 (協力会)

(株)神戸製鋼所
安全・環境部

発生事業所	加古川製鉄所	発生日時	2022年 7月25日(月) 12時 00分頃		
発生場所	2分塊工場 コベルコE&M 分駐整備場				
元方部署	圧延設備室				
協力会社	(元請)	(2次)	(3次)	(4次)	
	コベルコE&M	別府工業	-	-	
被災者	A氏 年齢：34才 勤続：5年 経験：5年				
負傷内容	右手中指先端部一部欠損 (細菌感染の懸念があり、経過観察のため入院)			休業見込み	7日

発 生 事 由	概要：	架台に立てかけたピンチローラ軸箱をチェーンブロックにて立て起こそうとした際に、軸箱が滑り、軸箱と架台の間で右手中指を挟んだ。
	10:30	被災者Aと作業指揮者Bの2名でRKY実施後にピンチローラ分解作業を開始。
	11:00	ピンチローラのD/S側軸箱の抜き取り作業に着手。
	11:40	門型の吊り装置を使用し、抜き取った軸箱を作業用架台に置いた。 軸箱内のベアリングを抜き取るため、作業指揮者Bはガス段取りで作業場を離れ、被災者Aには道工具の片付けを指示した。
	12:00	被災者Aは指示された道工具の片付けを完了した時に、ベアリングが軸箱から自重で抜け落ちていくことに気付き、次工程である軸箱の立て起こし作業に一人で着手した (当初計画では作業指揮者と2人で実施する予定であった)。 従来とは異なる方法で、軸箱を作業用架台に立て掛け、チェーンブロックにて立て起こそうとした際に軸箱が定盤上を滑り、軸箱と作業用架台の間で右手中指を挟んだ。

<災害発生状況図>



コメント欄
